平成２２年度　学校自己評価システムシート　（埼玉平成中学校）

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさを身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。

重 点 目 標	１　「Ｓ選抜クラス」と「Ａ進学クラス」の二つの新しい教育体制の定着、発展を図る。 ２　自主的に、安全に、安心して充実した毎日を送れる学校環境を作る。 ３　将来の夢を構築するためのキャリア教育を行い、健全な職業観を育む。 ４　中高一貫校としての６ヶ年教育の価値をますます高めるための教育環境整備に取り組む。

達　成　度	
A	ほぼ達成　（８割以上）
B	概ね達成　（６割以上）
C	変化の兆し（４割以上）
D	不十分　（４割未満）

出　席　者
学校関係者　　３名 事務局（教職員）３名

学　校　自　己　評　価							学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標				年　度　評　価（３月　２６日　現在）			実施日 平成２３年３月２６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	平成 22 年度より入試改革、学校改革を行い、新しい「Ｓ選抜クラス」の開設と今までの一般クラスを「Ａ進学クラス」に改組した二つの教育体制を構築した。今年度はその発足にあたり、中高で設置している「プロジェクトチーム」を継続し、両クラスの検証と来年度以降の計画を練った。 あわせて、このプロジェクトの根底には教員の授業力向上が不可欠であり、生徒の学力向上と定着の方策についても全職員で努力、工夫した。	・「Ｓ選抜クラス」「Ａ進学クラス」の二つの教育体制の順調な発足と発展 ・生徒の満足度を高める授業力の向上 ・学習の定着を図る	・中高各教科代表のプロジェクトチームによる具体的指導内容を実施 ・７時間授業、土曜特科、各教科での特科行事など ・研究授業の実施 各種研修会への参加 ・週末課題と翌週の確認テストの実施 ・フォローアップ授業	・６年後の実績をあげるための具体的方策は立案されたか ・授業改善が図られたか ・生徒の学力定着が図られたか ・生徒の学力が引き上げられたか	・月に１回ペースでの会議と各教科での検討を重ね、しっかりとした数値目標と具体的指導内容が計画された。 Ｓ選抜クラスでの授業や特科行事については大きな成果を収めたと言える。 ・引き続き、積極的に取り組んだ。授業後の研究討議を熱心に行い、各自の授業改善に取り組んだ。 ・システム化したことにより、年間を通して教科の進度に合わせた学力の定着が図られた。 ・個別指導により、概ね学力の改善が見られたが、継続して努力を要する生徒も見られる。	A A B	・「Ｓ選抜クラス」と「Ａ進学クラス」のそれぞれの特色のさらなる明確化を図る。 ・複数回の授業アンケートを行い、授業力向上に資する。 ・教科を中心とした中高合同の研究授業を行い、進度に応じた授業研究をする。 ・放課後の特別講習、フォローアップ授業に頼らない１時間１時間を大切にする授業への取り組み。	・新しいクラスについても順調に推移しているようだ。今後は更に１年ごとの成績の成果が問われるので、実績作りに腐心をして欲しい。 ・授業の質を高めるため、今後も中高で授業研究をして欲しい。 ・学力下位層の引き上げと同時にトップ層もさらに飛躍できるよう引き続き努力して欲しい。 ・高校進学後の類型間の協力も必要ではないか。
2	１クラス２５人を基本とした少人数教育のもと、一人ひとりを面倒見よく丁寧に指導をしている。穏やかで素直な生徒が多いが、ともすると他に頼る傾向が強く、たくましさと自主性に欠ける面もある。	・基本的な生活習慣の徹底 ・生徒の自主性を伸ばす ・安心安全な学校環境を作る	・個に応じた細やかな指導 ・各学校行事の充実 ・部活動、生徒会活動の充実 ・校内交通安全の徹底	・細やかな指導が日々行われたか ・生徒が主体性を発揮し、各行事に意欲的に取り組むことができたか ・生徒が自主的に活動し、成果を上げられたか ・交通安全のための施設が充実したか	・基本的な生活習慣、服装などは概ね良好である。 ・各行事とも生徒が主体的に参加し、本校らしい伝統行事として実施できた。 ・各部とも充実した活動をしている。特に水泳では全国大会に出場しその活躍が顕著であった。 ・保護者、スクールバスの送迎の際の一方通行が標識により徹底された。	A A A	・教員の共通理解に基づくきめ細やかな指導の充実。 ・本校の伝統行事のますますの質的な向上。 ・学習と部活動のさらなる両立を目指す。 ・大震災の経験を生かし、危機管理を再度検証する。	・生徒の自主性を伸ばす指導と同時にさらに「たくましさ」を身につけるような指導を望む。 ・大震災の当日、あの状況下でけが人もなく、その日に生徒全員を自宅に送れたことは大変良かった。この経験をもとにした上で、学校としての危機管理を再度検証する必要があろう。
3	生徒の目標は、中高６年後の大学入試に偏りがちである。その先の職業選択はもとより自己の将来設計をしっかりと考えさせることが重要である。	・キャリア教育の推進 ・進学指導室の設置	・「キャリアデザイン」を意識した指導の充実を図る。 ・模擬試験の活用	・自己の将来設計を考えさせられたか ・データを積極的に活用できたか	・キャリア教育については基礎的な職業に関する教育は行えたが、講演会等の計画的な取り組みはできなかった。 ・新しい模擬試験でのデータが活用でき、今後の分析力の強化に役立った。	B A	・「キャリアデザイン」のための講演会、企業見学の実施。 ・データを積極的に活用した面談の充実。	・保護者、学校関係者も協力を惜しまないので、講演会等を行って欲しい。 ・キャリアシート、データが生かされ大変良い。
4	本校の特長を生かし、生徒の能力を最大限に伸長させるためには、今以上に中高連結した効率的な６ヶ年一貫の教育体制が必要不可欠である。	・中高連結した効率的な６ヶ年一貫の教育体制の推進	・教科間の連携を密にし、学力の向上を図る。 ・年間行事の見直し	・中高連携が強化されたか ・中高合同行事や６年教育の特色ある行事ができたか	・１でのプロジェクトチームでの検討により、中高の教科間での連携が強まった。 ・中高合同朝礼、卒業生を囲む会等が行われた。	B	・２クラス体制となった中学生の高校進学後の新たな体制を構築する。	・中高一貫６ヶ年教育のすばらしさ、凄さをもっと追究して欲しい。 ・学校改革もスピードを求められる時代である。チャンスを逃すことなく、諸改革はより早く実行したい。